令和４年度　　令和５年４月５日

学校自己評価表（評価）

新潟産業大学附属高等学校

学校運営計画	
教育方針	生徒一人ひとりを大切にすることを基本に据え、下記の教育目標を達成し、「部活で燃えろ！進路で輝け！」を合言葉に、全国に名高い部活動・進学校を目指す。 ① 人生観の指導と自信ある生活態度の育成 ② 学習意欲と能力の向上 ③ 自律自治と社会連帯の精神涵養

昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
成果：大学等進学率が５０％を超えた。野球部春季県大会優勝など、多くの部で県内上位レベルの結果を残し、上位大会でも活躍した。入学者を前年度以上に確保することができた。 課題：ICT 活用、シラバス活用、家庭学習の定着、自律的学校生活の実現、キャリア教育の推進、新潟産業大学進学者数の引上げ、進路指導体制の構築などの課題がある。また、今年度は通信制課程の準備が課題となる。	(1)学習指導の充実	① 質の高い授業を実施し、生徒の学力向上を図る。 ② 主体的に学習に取り組む態度を育成する。
	(2)生活指導健康教育の充実	① 教職員が一致して生徒と向き合う指導を実践する。 ② 基本的生活習慣を定着させる。 ③ 生徒達自らで律する学校を目指す。
	(3)進路希望実現	① キャリア教育の充実を図る。 ② 生徒の進路第一希望達成１００％を目指す。
	(4)特別活動の充実	① 文武両道を奨励し生徒の帰属意識を高める。 ② 生徒会活動、学校行事、部活動を一層充実させる。
	(5)募集広報活動	① 有効な広報活動により志願者の更なる増加を図る。 ② 指導実践内容の情報を積極的に発信する。
	(6)学校経営組織体制研修	① 通信制課程設置に向けた具体的準備の推進を図る。 ② ICT活用推進のため、ハード面と研修の充実を図る。

重点目標	具体的目標	具体的方策		評価		
(1) 学習指導の充実	①質の高い授業を実施し、生徒の学力向上を図る。	教務	校内での授業見学会や研究授業などの自己研鑽できる機会をつくり、教員全体の授業力の向上を図る。	A	B	B
			教員一人ひとりが自らの指導課題を設定し、他校への授業見学などの自主研修の場を積極的に策定する。	B		
			シラバスによる詳細な学習計画とその成果の評価を実施する。	B		
		国語	授業で ICT 等を活用し、より質の高い授業を実施する。	B		
			漢字検定の１,２年全員受検を実施し、基礎学力の向上を図る。	C		
		数学	数学Ⅰ・Ⅱで習熟度別編成授業を実施する。	A		
		英語	論理表現 I、コミュニケーション英語 II・III で習熟度別編成授業を実施する。	B		
	②主体的に学習に取り組む態度を育成する。	教務	自ら進路を見据えた資格検定を見つけさせ、より上位級の受検を促し、知識を身に付ける場や学習意欲を高めるよう広報活動を行う。	A	B	
			自分の考えや意見をＩＣＴなどを活用しながら相手に伝えたり、他者の考えの良さを発見したりする場を設定する。	B		
			魅力的な放課後学習講座を設置し、その内容を充実させる。	B		
		国語	課題提供と小テストの実施により、家庭学習の定着を図る。	B		
			漢字検定受検をとおして、自ら学習を進める習慣を身に付けさせる。	B		
			図書館の活用により、調べ学習を含めたアクティブラーニングの充実を図る。	A		
		数学	学習記録表と小テストで授業の振り返りを行い、家庭学習課題を課し学習習慣の定着を図る。	B		
		英語	家庭学習課題と小テストの実施により、家庭学習習慣の定着を図る。	B		
			英語検定受験を推奨し、生徒一人ひとりに学習に向かう姿勢を意識づける。	B		
		１学年	基礎学力と学習意欲向上のため、家庭学習計画表を作成させ、基本的な学習習慣を身につけさせる。	B		
		２学年	進路実現に向け、様々な知識を身につけ、自らの進路選択の可能性を広げるために情報収集を行うよう指導する。	B		
			継続的な学習習慣を身につけさせ、基礎学力の定着と発展問題への取り組みを勧める。	B		
		３学年	目標を明確にすることで、自ら課題を発見し、その実現に向けて積極的に取り組ませる。	A		
(2) 生活指導健康教育の充実	①教職員が一致して生徒と向き合う指導を実践する。	生徒指導部	丁寧な生徒理解・保護者対応、人権に配慮しながら生徒に寄り添う指導。問題発生時には早期対応に努める。	B	B	B
			生徒と接する時間を有効に利用し、常に向き合いながら「目配り指導」を実践していく。	A		
			規律・マナーについて日常的に指導し、生徒自ら律する生活態度の育成を図る。SNS の適切な利用指導を徹底する。	B		
	②基本的生活習慣を定着させる。	１学年	高校生活の目標を定めさせ、社会のルール・学校生活のルールを周知・徹底し基本的生活習慣を定着させる。	B	B	
		２学年	身だしなみ、環境整備を徹底し、学校生活の目標を見定めて安定した学校生活を送るように指導を徹底する。	B		
		３学年	最高学年としての自覚を持たせ、基本的生活習慣の確立を図り、学年集会等で周知させる。	B		

	③生徒達自らで律する学校を目指す。	生徒指導部	高校生としての規律・マナーを理解し、共に学び、注意し合える環境づくりを目指す。	B	B	
		３学年	下級生の手本となる言動を意識させ、常に率先垂範を心掛けるよう指導する。	B		
（3）進路希望実現	①キャリア教育の充実を図る。	進路指導部	生徒自らの興味・関心を軸に課題を発見し、解決を目指す中で身に着けた資質・能力を。次の学びにつなげる。	B	A	A
			キャリア教育の視点に立って進路活動に取り組ませ、生徒の成長を促すとともに学力向上に導く	B		
		１学年	さまざまな行事に積極的に参加させ、充実した高校生活を送る中で、多角的な考えが持てるように指導する。	B		
		２学年	総合的な探究の時間で、他地域との違いを比較・考察することによって、多様な生き方、考え方に触れさせる。	A		
		３学年	自分の将来のビジョンを持たせ、それを意識しながら具体的な進路活動に取り組ませる。	A		
			「自分らしい生き方を実現するための力」を育成するために、学校行事に主体的に取り組ませる。	A		
	②生徒の進路第一希望達成100％を目指す。	進路指導部	進路指導部ニュース等の進路情報や自身の活動の的確な振り返りにより、自身のより良い生き方の模索を図る。	A	A	
			模擬試験や取り組みの振り返りを行い、継続・追跡指導を行い希望実現できる力を養い、希望進路を安易に下げさせない指導を行う。	B		
		１学年	幅広い進路選択を可能にするために、自ら情報収集させ、面談等を通して進路についての考え方を広げさせる指導を行う。	A		
		２学年	進路情報を自ら収集させることにより進路意識を向上させ、具体的な進路志望を早期に設定させる。	B		
		３学年	諦めることなく、更に上を目指す意識を持たせ、自ら希望した目標を全員が達成できるよう支援する。	A		
			進路ガイダンス、講話を通じて「職業的自立」「社会的自立」を高め、自分らしい生き方を実現できるように考えさせる。	B		
			高い志を堅持させ、第一志望を貫けるように支援し、大学等進学率５０％以上、就職内定率１００％を目指す。	A		
（4）特別活動の充実	①文武両道を奨励し生徒の帰属意識を高める。	生徒指導部	学校生活のあらゆることに主体的・積極的に取り組ませることにより、他を思いやり、互いに高めあう学校を目指す。	B	B	B
			「知・徳・体」の錬成、生徒が身体を鍛え、心を磨き、勉強するために伴走していく。	B		
			部活動や各種検定合格等の情報を提示し、全校生徒が理解を深めることで、関心を高め、次への意欲に繋げていく。	A		
	②生徒会活動､学校行事、部活動を一層充実させる。	生徒指導部	体育祭や統一祭等で生徒の自主性を活かし、成就感や達成感をもてる企画・運営を支える。	B	B	
			県内トップクラスの部活動実績を維持し全国大会出場数増加と入賞を目指す。また、全校で盛り上げる環境づくりを図る。	B		
			専門委員会が中心となり、環境美化・施設、衛生管理を組織的に活動できるようにする。	B		
（5）募集広報活動	①有効な広報活動により志願者の更なる増加を図る。	教務	オープンスクールなどでの発刊物の内容充実を図る。	B	B	B
			入試相談会を実施し、本校への理解の深化に努める。	A		
		企画委員会	専願・推薦による志願者の更なる増加を図るため、県外を含めた情報収集を奨励するなど、より積極的に広報活動を行う。	B		
	②指導実践内容の情報を積極的に発信する。	教務	学校ＰＲ動画の作成とホームページの強化を行う。	B	B	
			産附通信の定期的な発刊と配付を行う。	A		
		企画委員会	マスメディア等を積極的に活用し、指導実践内容や部活動の実績等の発信に努める。	B		
			中学校訪問や高校説明会の機会を活用し、指導実践内容や部活動の実績等を直接中学校に伝えるように努める。	A		
（6）学校経営組織体制研修	①通信制課程設置に向けた具体的準備の推進を図る。	通信教育事務室	認可申請における必要書類の確実な準備を行う。	A	A	A
			通信教育実施計画案に基づいた諸準備を行う。	A		
			HP・募集ツールを積極的に活用し、教職員一体となった学校訪問を実施する。	A		
	②ICT活用推進のため、ハード面と研修の充実を図る。	ICT教育推進プロジェクトチーム	令和５年度からの１人１台タブレット端末の導入に向け、必要な機器・アプリを精査し導入するとともに、研修会を実施し教員の指導力向上を図る。	A	A	
			全教員が ICT を活用した授業を実践し、質の高い授業を展開することにより、生徒の学力向上を図る。	B		
			ICT を用いて、保護者との円滑な連絡や連携を取るとともに、地域社会に向けて情報を配信し広報に活用する。	A		
		教務	全職員がＩＣＴを活用した授業を実践できるように、研修会を実施する。	A		
成　果	大学等進学率が増加し２年連続で５０％を超え、今年度は５６.７％となった。 部活動では、県総体でソフトテニス部が初の男子団体優勝を果たすなど多くの部で優勝を含む成果を挙げ、インターハイ陸上競技男子２００ｍ３位等、上位大会でも活躍した。通信制課程の設置が認可され、募集を含め順調に準備が進んでいる。				総合評価 B	

※評価　A：十分達成　B：概ね達成　C：達成不十分　D：未達成